製造業安全対策官民協議会　特別セッション

会 場　福岡国際会議場（4F中会議室）
交 通　西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

製造業主要10団体と学識経験者、厚生労働省、経済産業省、中災防による官民が連携して、製造業における安全対策の更なる強化を目的として発足した本協議会は、今年６年目を迎えました。本セッションでは、「リスクアセスメントにおける危険源の特定について」、「産業安全の経済効果（最終報告）及び体感安全教育の体系化と共有化について」など本協議会の取り組み状況について報告し、また「わが国の労働環境の変化から読み解く今後の労働安全」をテーマにパネルディスカッションを行います。

10月20日（木）　プログラム（9:00開場）

▌開会挨拶及び官民協議会の５つの主な検討事項　10:00

製造業安全対策官民協議会会長
石油連盟　常務理事　**吉村　宇一郎**

▌リスクアセスメントにおける危険源の特定について　10:10

明治大学　名誉教授　**向殿　政男**

▌産業安全の経済効果（最終報告）及び体感安全教育の体系化と共有化について　10:25

東京大学　名誉教授　**田村　昌三**
（国研）産業技術総合研究所　安全科学研究部門
爆発利用・産業保安研究グループ　主任研究員　**牧野　良次**

----------《10：40 ～ 10：50　休憩》----------

▌パネルディスカッション　10:50

わが国の労働環境の変化から読み解く今後の労働安全
～経営トップの役割　これからの安全対策の知恵～

パネラー
製造業安全対策官民協議会構成員（（一社）日本自動車工業会）
トヨタ自動車㈱　安全健康推進部　部長　**鎌田　祐子**
明治大学　名誉教授　**向殿　政男**
厚生労働省　労働基準局　安全衛生部長　**美濃　芳郎**
経済産業省　大臣官房審議官（製造産業局担当）　**恒藤　晃**
中央労働災害防止協会　理事長　**竹越　徹**

司会
東京大学　名誉教授　**田村　昌三**

終了は12:00

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

会場 福岡国際会議場（2F 多目的ホール）
交通 西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月20日（木） プログラム（9:00開場）

9:30

1 ゼロからのJIS Q 45100認証取得と各工場への拡大認証取得

東邦チタニウム㈱ 若松工場
管理部総務グループ兼環境安全部 係長
梅澤 一久

ゼロからの出発で2021年3月本社茅ヶ崎工場を認証登録。2022年3月若松工場、八幡工場を認証拡大登録するため活動中。安全衛生活動を規格の箱に入れて運用するだけだが、各部署からの抵抗感と規格要求に対して微調整。ポジティブな発信で理解と自立を目指してきた。

9:50

2 IDECにおける安全文化構築の活動

IDEC㈱ 生産・SCM本部
常務執行役員 生産・SCM本部 本部長
赤松 浩二

2018年度以降、ISO45001認証取得の事業所を増やしてきた。その取り組みの中で見出した安全文化の構築の考え方や当社の特徴的な取り組みを紹介し、安全衛生活動を生産活動の中にどう根付かせていくかについて報告する。

10:10

3 金融機関によるESG/SDGs融資を通じた事業者の安全取り組み促進のための事例研究

みずほリサーチ&テクノロジーズ㈱ サステナビリティコンサルティング第2部 コンサルタント
庭野 諒

金融機関によるESG/SDGs融資を通じた事業者の安全取り組み促進のための事例研究を行った。金融商品の組成、安全取り組み状況の評価・目標設定、さらに具体的な取り組み支援という一連の流れを試行錯誤し、課題点を整理した。そして安全取り組み促進に貢献する金融商品の可能性を検討した。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

講演 これで取得！ ISO45001認証 ～不適合の事例から学ぶ認証取得のコツ～

中央労働災害防止協会
認証事業執行責任者
安全衛生マネジメントシステム審査センター所長
ISO/TC283日本代表エキスパート
斉藤 信吾

ISO45001/JIS Q 45100認証審査において、よく見受けられる不適合の事例を紹介しながら、認証取得のヒントをご説明する。コツをつかめば、認証取得は決して難しくない。

（11:40 ～ 13:00 昼休み）13:00

4 JIS Q 45100取得へのチャレンジ ～担当者が感じた課題～

㈱NTN
上伊那製作所 管理部 総務課
原 健二

6年間運用したOSHMSから、国際規格であるISO45001／JIS Q 45100にトライするに当たり、箇条の理解からマニュアルの作成、管理層への教育など専門家の助力を得ながら解決した。審査までの過程を振り返り、取得後の課題への取り組みについて発表する。

13:20

5 ISO45001を活用したスタッフ職場への安全衛生教育

日本製鉄㈱ 名古屋製鉄所
製鋼部 製鋼技術室 精錬技術課 課長
中島 弘喜

事業所安全部門担当者としてISOの認証取得を推進。将来のライン管理者となる若手スタッフに向け、ISOを活用した安全衛生活動への参画や教育などを進め、管理者となるための素地を作った。安環防最優先の考え方を言葉だけでなく、体感させることに主眼を置いて活動を行った。

13:40

6 JIS Q 45100認証取得に向けた活動報告

大阪シーリング印刷㈱
福岡工場 安全衛生管理課 課長
田中 健太

トップが方針を表明し、システム運用のために組織の体制を定め、組織内すべての働く人との協議と参加のもと継続的改善をおこないPDCAをまわしていく。大阪シーリング印刷㈱福岡工場の安全文化醸成の仕組み構築を目指し、JIS Q 45001認証取得に向けた活動を報告する。

14:00

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

（14:00 ～ 14:10 休憩）14:10

パネルディスカッション

ISO45001で運用する健康づくり

パネリスト　日本製鉄㈱ 名古屋製鉄所 安全環境防災部 衛生・健康推進課 課長　安藤　真樹
㈱SUMCO 生産本部 安全防災部 兼 人事労政部 健康推進課 担当課長　定方　次男
キヤノン㈱ 人事本部 安全衛生部 健康支援室 副部長　矢内　美雪

モデレーター　中央労働災害防止協会 認証事業執行責任者
安全衛生マネジメントシステム審査センター所長 ISO/TC283 日本代表エキスパート　斉藤　信吾

15:40

10月21日（金）　プログラム（9:00開場）

9:30

7 地中送電線取替にかかる労働災害防止の取り組み

東海旅客鉄道㈱
東京統括電気所 新横浜電気技術センター 電気技術係
上田 智弘

地中送電線取替工事は約30年ぶりの工事で、高所、重量物、重機使用、狭隘箇所などさまざまな労働災害リスクが存在している。これを関係会社と一体となってリスク評価を行い、それぞれ最適な対策を実施する取り組みを行い、令和5年度まで続く同工事を無事故での施工を継続している。

9:50

8 天井への昇降時における墜落リスク低減

東海旅客鉄道㈱
関西支社 大阪統括電気所 電気技術係
早瀬 孝太

天井への昇降時、無胴綱となり墜落リスクが高いことから本研究に取り組んだ。
天井内の環境が場所ごとで異なるため、あらゆる点検口で対応し得る対策を検討した結果、ワイヤーロープを用いたランヤード取付箇所を設置することで墜落時の死傷リスク低減を実現した。

10:10

9 安全衛生管理活動から得られた触車・墜落災害防止の取り組み

西武鉄道㈱
建設部 連続立体交差化事務所 主任
竹川 浩庸

本事業は、東京都・東村山市と連携し、西武鉄道新宿線、国分寺線および西武園線の東村山駅付近約4.5kmについて鉄道を高架化し、道路と鉄道を連続的に立体交差化する事業を推進している。関係者と一体となって活動している安全衛生管理活動から得られた取り組みを発表する。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

10 検査造形職場の安全対策

カワサキモータース㈱
明石工場 技術本部 技術管理部 試作課 班長
岡田 陽太郎

安全衛生管理者教育で得た知識を基に、リスクアセスメントの手法を用いて職場の危険有害要因を抽出して対策を実施した。「原理原則」を重点に置き班員に教育を行い、彼らの意見を尊重して全員で取り組んだことで「職場の安全」と「意識の向上」を図れた。

11:00

11 実装部品入庫作業はさまれ災害撲滅活動

コマツ
湘南工場 生産部 製造第一課
今川 賢太朗

私達の職場は組み立てた電子部品を1階の作業場からエレベータを使用して次工程のある2階、3階のラインへ部品供給を行っている。マクロリスクアセスメントを用いてリスクを洗い出し、はさまれ災害防止のため安全かつ作業性の良い運搬台車を知恵を出して作成、改善した事例である。

11:20

事例報告

サカタインクスの安全活動 ～ OSHMSとTPMの融合～

サカタインクス㈱ 執行役員 資材部担当
SCM推進部長 兼 生産技術本部副本部長
安達 靖幸

当社の安全活動の特徴は、OSHMSを基本とし、様々なツールを用いたリスク抽出、設備の本質安全化、新たな指標値としての安全保証度の設定、個人の行動安全調査の活用、安全教育の充実と拡大等をTPM活動と融合させて全員参加で進めた事にある。その活動の概要を紹介する。

11:50

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

（11:50 ～ 12:50 昼休み）12:50

事例報告

事務職場における ISO45001 認証取得の効果

社会保険労務士法人あかつき
代表
小前 和男

安全衛生を含めて職場環境を改善するには、マネジメントシステムに基づいて行うことが重要だと理解されている。以前から特に、リスクアセスメントの手法は安全対策のみならず、応用すれば日常業務の品質向上に大変役立つ手法として認識していたことから、積極的に取得を目指した。

13:20

12 深耕リスクアセスメントを取り入れ不休労災撲滅を目指す

有楽製菓㈱
札幌工場 生産本部 2課
小野寺 紘

転倒労災について安全衛生活動である深耕リスクアセスメントを行い、危険な芽を見逃してしまわないための項目を事前に導き出しておくことで広範囲に対策を講じて、労災を発生させない職場環境づくりを目指していく内容である。

13:40

13 設備給油時の腰痛リスク低減活動

コマツ
粟津工場 コンポーネント部 機械第一課
高見 賢二

私達の職場には旋盤やマシニングセンタ等の加工設備が 7 台あり週 2 回の給油が必要で、1 回の給油作業で移動距離 162m、しゃがみ 17 回、前屈 7 回となり、腰に負担のかかる作業の連続である。その作業について、からくり機構を用いた安全台車を製作、腰痛リスクを大幅に改善した事例。

（14:00 ～ 14:10 休憩）14:10

14 線路立ち入り時の安全性向上に向けたリスクアセスメントの取り組み

嵯峨野観光鉄道㈱
鉄道部施設課 担当課長
小髙 岳彦

列車の運行時間帯において作業を行う際の作業員の安全性向上を目指し、線路から待避するタイミングに着眼点をおいたリスクアセスメントを実施した。分析結果に基づき導入したハード対策および運用状況を紹介する。

14:30

15 名古屋駅構内工事におけるリスクの可視化と変化への対応

東海旅客鉄道㈱
建設工事部 主任
河瀬 仁志

中央新幹線名古屋駅新設に伴う鉄道電気設備工事において、現場環境が日々刻々と変化することにより、労働災害が発生するリスクがより一層高まることが懸念された。本研究では現場環境変化に伴う労働災害リスクを抽出し、「適時」「適切」に管理する体制を確立した。

14:50

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会　会場にて
「ISO45001/JISQ45100 認証取得の無料相談コーナー」開催！

安全管理活動分科会（第 1 会場）

会 場　福岡国際会議場（3F メインホール）
交 通　西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10 月 20 日（木）　プログラム（9:00 開場）

9:30

1 類似災害から学ぶ継続した安全活動の取り組み

日産自動車㈱
栃木工場 成形技術部 型製作課 工長
飯笹 剛

日常的にクレーンを扱う職場で 9 年連続無災害を継続している。類似災害報告内容を生かした安全活動の成果を紹介する。

9:50

安全管理活動分科会（第1会場）

9:50

② 物流業務の安全性向上

カワサキモータース㈱ 明石工場
生産本部 エンジン製造部 鉄機械加工課 班長
藤井 幸生

物流業務の安全性向上をテーマと掲げ、弊社で災害の多い刃物とフォークリフトに注目、リスクアセスメントの手法を活用し対策を行った。フォークリフトは運転者側のみの対策ではリスクレベルの低減は難しく、課内全員の意識知識の共有を図るべく、工夫を凝らした教育を実施した。

10:10

③ 上手く見える？【ながら防止】フォークリフト導入による荷役ニアミスゼロへの取り組み

㈱IHIジェットサービス
生産統括部 呉事業所 職長
中野 大輔

弊社ではフォークリフトによるニアミス災害が後を絶たない。全国３事業所で最初の取り組みとなるハード面での活動を紹介する。①ドラレコを全車に装着し真のニアミス要因を知る、②多重操作【ながら】防止をメーカーと調整。2021 年度は目標の完全無事故・無災害を達成した。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

④ 安全活動の浸透と徹底についての模索

日本製鉄㈱
本社 安全推進部 部長
朱宮 徹

職場においてさまざまな安全活動を行っている。しかしそれを働く人に浸透・徹底させるには苦労がある。放置すればすぐに形骸化し、安全活動と安全な作業は別ということにもなりかねない。ここでは当社において「安全活動を浸透・徹底」させるために行っている事例を紹介する。

11:00

⑤ 明電舎施工現場のESG、DXへの取り組み（ESG、安全・品質、新型コロナ）

㈱明電舎
プラント建設本部 本部長
土屋 浩

2030 年を一つのゴールとして、明電舎が目指したい社会の姿を事業戦略に生かす。その中で最前線で働く現場の職員にフォーカスして、労働災害防止のため安全に関するさまざまな取り組みを紹介する。

11:20

⑥ 安全衛生巡視の有効性を高める

㈱フジクラ
EHS統括センター EHS管理グループ 主席技師
門馬 秀明

弊社は第 80 回大会でリスク低減の取り組みの全体像を発表した。活動の中で重要な位置づけとしている生産拠点の巡視について、試行錯誤で始まった５年前からコロナ禍の今日まで巡視の有効性を高める活動を行ってきた。今回は、具体的な事例を交え、その一部を発表するものである。

（11:40 ～ 12:40 昼休み）12:40

特別報告

産業安全の現状と課題～第14次労働災害防止計画に向けた取り組み等について～

厚生労働省
安全課長
釜石 英雄

近年、労働災害が増加傾向にある。労働災害発生状況を踏まえて、皆さまの職場で取り組んでいただきたい安全管理活動について、第 14 次労働災害防止計画の策定に向けた厚生労働省の取り組みとともに紹介する。

13:10

⑦「安全とコンプライアンスはすべてに優先する」の下でスタートした安全管理活動

共栄商事㈱
北九州事業所 海外事業本部ソルト部 主事
宮原 健太郎

当社の安全管理はこれまで部門や拠点任せで、バラバラで不十分なところもあった。そこで「安全とコンプライアンスはすべてに優先する」というトップ方針の下、全社一体の活動として改善を進めてきた。その改善施策と北九州拠点での活動を具体的な事例として説明する。

13:30

⑧ 安全基本ルールの策定と全作業者への浸透についての取り組み紹介

日本製鉄㈱
安全推進部 上席主幹
田中 将樹

弊社は全国に 14 の事業拠点を構えており、どの事業拠点においても共通の遵守事項（安全６則）を制定し、ルール遵守の定着と浸透に取り組んできた。安全６則は社で最も大切な安全ルールとして浸透定着しつつあり、災害発生件数は減少している。

13:50

安全管理活動分科会（第1会場）

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

事例報告

安全で働きやすい職場へ！全員参加で安全意識向上活動！

九州小島㈱
管理部 次長
阿南 徹意

2017 年 4 月に業務拡大の為、新工場を設立。急激に社員・新設設備が増加し、労働災害も頻発していた。安全･安心な職場づくりを目指し、会社トップ主導の安全活動からスタートし、全社員が当事者として安全を意識してもらう活動を進めている。

14:30

9 不安全行動と労働災害

有楽製菓㈱
札幌工場 生産本部 工場長
白鳥 文男

不安全行動による労働災害を防止するために、実際に発生している不安全行動に着目して分析を行い、ハードとソフト、教育方法の見直しを行い対策を実行する。

14:50

10 カク・レン・ボウ（確認・連絡・報告）による事故事象の低減について

日本電設工業㈱
鉄道統括本部 横浜支社 施工管理課 課長
片山 智一

事故事象が発生するメカニズムを考察し、エラー自体の低減とエラーを起こしたまま行動しないための確認手法を指差喚呼を用いてセルフチェック・ダブルチェックに応用した。また、必要会話を行うために連絡・報告をいつ・どのように行うかを習得するための訓練手法を提案した。

（15:10 ～ 15:20 休憩）15:20

講演

ロボット技術の最前線　～ロボットによる進化するソリューション～

㈱安川電機
代表取締役 専務執行役員 ロボット事業部長
小川 昌寛

安川電機ではオートメーション技術に加え、デジタルデータの活用による革新的な自動化ソリューションの実現に向けた取り組みを展開している。本講演では IoT・AI 活用を含め、ESG や SDGs への貢献に繋がるロボットの最新動向をご紹介する。

16:20

10月21日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

11 協力会社と共に築く製鉄所の安全

日本製鉄㈱
本社 安全推進部 部長代理
萩原 眞治

当社製鉄所では多くの協力会社が鉄造りに関連する多種多様な作業に従事している。その作業は生産量や生産条件による変動を避けられず、その中で安全管理を行うためには当社関係部署との連携が必要不可欠である。今回、協力会社との連携時に注力すべき点について報告する。

9:50

12 焦らず急がず『ひと呼吸』安全優先への自職場改善

日産自動車九州㈱
工務部 工務課 指導員
南 祐樹

休業災害発生を受け、安全意識・危険感受性を高める取り組みを課として推進してきたが、保全点検中の安全確認省略行為により自職場から重大ヒヤリを発生させてしまった。保全員の危険感受性と危険敢行性という難題への取り組みを行い、安全優先への自職場改善とした。

10:10

13 誰もが「止める・呼ぶ・待つ」ために、危険敢行性の背景を探り業務プロセスを改善！

日本スピンドル製造㈱
総務部安全衛生グループ グループリーダー
西野 高弘

生産現場では危険を感受した際の「止める・呼ぶ・待つ」を繰り返し指導するが、危険を感受しても作業を止めないことがいまだ労働災害発生の原因となっている。部門横断的な対話から危険敢行に至る本音と「止める」基準を見える化し、部門連係による業務プロセス改善で労働者を守る。

10:30

安全管理活動分科会（第1会場）

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

講演

好信楽　～好きで信じて楽しんでこそ、物事は長続きする～

シャボン玉石けん㈱
代表取締役社長
森田 隼人

1974 年より先代の森田光徳に切り替え、以後 17 年間の赤字経営が続いた。信念を曲げず「無添加石けん」にこだわり続けた先代の想いを継承しつつ、石けんを科学的にアプローチし、新たな可能性の発見にも挑戦している。

（11:40 ～ 12:40 昼休み）12:40

事例報告

日本特殊コーティング㈱の安全活動紹介 ～日欧安全文化の融合と醸成～

日本特殊コーティング㈱
筑波工場　工場長
黒澤 孝彦

日本特殊コーティング㈱筑波工場は、日本的な安全文化の上に、グローバルな安全ツールの導入等、日欧の安全文化を融合・醸成させ、ボトムアップ型とトップダウン型の活動を織り交ぜた７つの主要な安全推進活動を推進し、操業開始以来 20 年以上にわたる無災害を達成している。

13:10

14

安全意識調査結果を踏まえた安全活動と安全教育

フタムラ化学㈱
大垣工場 安全環境グループ グループリーダー
岡部 哲也

労働災害の発生は減少傾向にあるが、作業者の不安全行動に起因する発生頻度は依然として高い。作業者の行動思考を見える化し、「集団決定・自己決定手法」を導入、取り組んできたが、安全風土改善活動を進化させるため、原理・原則を基本とした安全教育の取り組みを紹介する。

13:30

15

非定常作業時の安全確保活動の実践 ～大規模レイアウト変更時の災害ゼロ実現～

㈱リコー RDP OC 事業部 グローバル RR センター
NM 循環室 NM 強化 G
中村 貴

事業所の再編に伴い、7つの生産ラインを対象とした最適配置を計画し、レイアウト変更を実施する事になった。レイアウト変更は非定常作業になり、グループ企業でも非定常作業時に災害が発生している事から、事前準備から活動した災害未然防止活動の取り組み内容を紹介する。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

16

安全部門で基盤業務を行う担当者の心得と管理者へのお願い

日本製鉄㈱
名古屋製鉄所 安全環境防災部 安全健康室 一般
山下 美弥子

事業所の安全部門には安全基準の整備、安全統計、資格・教育管理など安全衛生管理の基盤を支える担当者が不可欠である。しかしその担当者は表舞台に立つことも少なく、モチベーションの維持も容易でない場合が多い。ここでは自身の体験や経験をもとに担当者の心得について述べる。

14:20

17

全豊田安全衛生研究会でのハイリスクに対する取り組み強化

トヨタホーム㈱
製造部 担当部長
荘加 滋

トヨタグループ 17 社で構成されている全豊田安全衛生研究会では、近年発生している重大、重点災害を撲滅するためにハイリスクに対する取り組み強化を行っている。グループ間での横展開をタイムリーに行うことで、グループ内での同一同類災害発生の未然防止をすることが出来ている。

14:40

18

300 撲滅活動の一考察 ～集大成～ 災害データからの気付きと提言

（一社）日本自動車工業会 安全衛生分科会 B グループ
研究会委員（いすゞ自動車㈱藤沢工場労務部総務・安全健康グループ）
須藤 泰佑

本研究会は、東日本の関東圏自動車完成車メーカー７社で構成し、2016 年全国産業安全衛生大会から「300 撲滅活動の一考察」をテーマに研究し、議論を重ねながら、毎年異なる提言を考え、発表してきた。今回は過去５年間の集大成として、近年の過去災害を分析し、提言する。

15:00

安全管理活動分科会（第2会場）

会場 福岡国際会議場（4F中会議室）

交通 西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月20日（木） プログラム（9:00開場）

9:30

1 鹿児島保線所の安全の取り組みについて

九鉄工業㈱
鹿児島支店 鹿児島保線所 係長
田中 聖也

昨年度JR九州施設部では12件の労災があり、その中で九鉄工業は4件の労災を発生させた。うち2件は軌陸ダンプの逸走による追突での労災である。鹿児島保線所では軌陸式重機を使用する作業が多いので、今回軌陸ダンプを使用する際の鹿児島保線所の取り組みについて説明する。

9:50

2 埋設管の確認手法について

九鉄工業㈱
大分支店 土木課 係長
川合 綱木

工事を実施する際は事前に埋設ケーブル確認打ち合せ書を取り交わし、作業に支障する埋設物の有無を確認し、支障がある場合は監督員等と打ち合せ、埋設物の防護・移転を行って作業をする。これが鉄道の正常な運行を守るための基本である。現場の事例を踏まえた問題と対策を報告する。

10:10

3 「究極の安全」へ向けた取り組み ～守るは安全、攻めるは変革～

東日本旅客鉄道㈱ 仙台支社
仙台保線技術センター 保線技術G 主務
阿部 優樹

究極の安全の実現に向け、パートナー会社を含めた職場全体での議論やポスター作成を行った。初めは弾まなかった議論も、根気よく続ける事で信頼関係が生まれ、課題解決に向けて一丸となって取り組めるようになった。今では「安全はみんなで創る」という意識が浸透している。

10:30

4 電気職場における墜落労災防止の取り組み

北海道旅客鉄道㈱
札幌電力所 助役
渡邉 侑佑

昨年度、弊所管内で電車線（電車運行のための架線）の修繕作業中に、はしごの据え付け方法を誤り、はしごから墜落する労災が発生した。これが契機となり、墜落労災が起きた作業環境を模した訓練設備を製作した。なお、職場敷地内のスペースを活用したことで、いつでも訓練が可能である。

（10:50 ～ 11:00 休憩）11:00

5 安全品質活動 ～組織の安全管理の充実に向けて～

㈱JR西日本テクノス
下関支店 安全推進部 安全課 安全担当
藤本 敏隆

「JR西日本安全考動計画2022」に基づき5年後の目指す姿として安全重点実施項目を掲げ、安全マネジメントをもとに全員参加で日々取り組んでおり、各種取り組みのPDCAサイクルが成熟期を迎える時期にきている中で組織の安全品質の充実に向けた活動の経緯と成果を発表する。

11:20

6 危険箇所が一目で分かる！ 鋼板の黄色縞塗装による危険の見える化

九州旅客鉄道㈱
小倉総合車両センター 車両技術係
熊手 雄大

2021年5月に当センターの塗装作業場においてフォークリフトの後輪が車両運搬用鎖コンベアの鋼板と共に落輪する事象が発生した。対策でフォークリフトで運転してはならない約170箇所の鋼板に黄色縞塗装を施し危険を見える化し、ルールを策定することで再発防止を図った。

11:40

7 作業の勘所・急所を共有した安全性向上の取り組み

西日本電気テック㈱
金沢支店 白山新幹線MC 主任
狩野 信幸

当事業所では、北陸新幹線唯一の車両基地である白山総合車両所を含め、北陸新幹線内の電気設備のメンテナンス業務をしている。車両基地特有設備の作業においてヒヤリ・ハットが多発したことから、リスク情報を社員間で共有し、同種事象の再発を防止する取り組みと改善を行った。

12:00

安2 安全管理活動分科会（第2会場）

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

8 JR東日本盛岡電力技術センター 安全管理活動の推進事例について

東日本旅客鉄道㈱
盛岡電力技術センター 副長（安全指導科長）
鎌田 満

当職場では発足当時から、① CS 運動、②安全ミーティング、③事故防止強化運動を「安全の３本柱」と位置付けて取り組んできた。この取り組みが功を奏し、これまでに人命に係る重大事故は発生させていない。この現状を踏まえ、20 数年にわたって継続してきた安全管理活動事例を紹介する。

13:20

9 全ての所属員が認識できる「危険の見える化」の推進

小田急電鉄㈱
新宿駅 新宿管区 総括主任
提島 正行

駅で勤務している労働者の災害リスクを軽減するため、身近に潜む労働災害に起因する危険箇所を特定し、リスクアセスメント手法に基づき災害起因の低減を進め、危険マップの製作により職場内の「危険の見える化」を所属員に対して明確にした。その内容について紹介する。

13:40

10 危険に気づき行動する ～安全行動の進化に向けて～

東日本旅客鉄道㈱
大宮支社 大宮車掌区 指導係
榎本 将之

本研究では、当区で発生するドア扱いに関する繰り返し事象を完封するために、リスクの掘り起こしと臨機応変な対応ができることを目指し、課題である「暗黙知の可視化と共有」、また「危険への気づき」を高めるための最適なツールとして「車掌版シナリオ描画課題」の開発を行った。

（14:00 ～ 14:10 休憩）14:10

11 全員参加の安全管理に向けて

㈱JR西日本テクノス
姫路製作所 製造第一部 副班長
辻 信輔

今年度に発生した「連続した労働災害」による気付きと、これまでの安全活動の振り返りにより安全管理体制における課題に対し、一体となり「全員参加の安全管理」を構築するための新たな取り組みと、それらを如何に浸透・継続させていくかを課題とした発表である。

14:30

12 警戒灯置き忘れ事故防止の取り組み

㈱メトロレールファシリティーズ
安全防災部 主任
勝田 かおる

弊社は東京地下鉄の鉄道施設の保守・点検を行う会社である。近年、作業後の線路内に工器具類の置き忘れを度々発生させており、列車の安全運行に支障をきたしかねない状況であった。そこで、特に置き忘れの多かった警戒灯を焦点に、置き忘れゼロを目指す取り組みを実施し成果をあげている。

14:50

13 「安全文化確立のための『環境・人・仕組み』づくりに向けた取り組み」について

名工建設㈱ 軌道本部 大阪軌道部
鳥飼新幹線軌道事務所 軌道事務所長
近藤 俊也

新幹線の車両基地内の工事において、従事者等が入換列車に接触する等の労働災害を起こさないために、従事者に対する教育や重要情報を確実に作業員へ周知する方法を定め、それら取り組み内容を高いレベルで継続できるように履行確認を行い、環境・人・仕組みづくりの確立を図った。

（15:10 ～ 15:20 休憩）15:20

14 営業線における耐震補強工事の安全管理

九鉄工業㈱
福岡支店 土木課 課員
佐藤 将斗

安全とは、事故を起こさない事、ルールを守る事、ケガをしない事、服装を整える事を守っていれば大丈夫なのだと、漠然とした考えを持っていたが、昨年１年間現場に従事して安全管理の難しさや重要性に気づき、安全に対する意識や考えが向上した。その安全の取り組みについて報告する。

15:40

15 中央新幹線山梨高架作業所における安全確保の取り組み

名工建設㈱
甲府支店 土木部 工事係
岡田 久敏

我々は発注者、行政、住民からの注目度が高い中央新幹線高架橋新設工事を行っており、一度不安全作業やルール逸脱行為で事故等を起こせば信頼が失墜し、工事を進めることが困難となる。さまざまな災害について未然に防止することが重要であり、実施した具体的対策について発表する。

16:00

安全管理活動分科会（第２会場）

16:00

16 第6只見川橋梁架設におけるケーブルエレクション直吊工法の安全管理

仙建・秋山ユアビスJV 本名土木作業所
福島支店 土木部 本名土木作業所 担当所長
伊藤 洋之

鉄道の保守並びに新設を主体とする建設会社として、平成23年７月に発生した豪雨災害により被災した只見線の第６只見川橋梁架設工事（ケーブルエレクション直吊り工法）において、建設三大災害の一つである墜落・転落災害の防止を図るために自職場で取り組んだ内容について述べる。

16:20

10月21日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

17 集じん機ホッパーダスト回収時の安全化～施工者の安全は私たちが守ります～

JFEスチール㈱
西日本製鉄所（倉敷地区）製銑工場
植山 沙耶

移管された業務を３現主義にて確認した結果、危険作業が多く存在。発注者責任全うの為、酸欠作業撲滅を目標に活動を開始。ホッパー下部にある未使用の管座に注目し、マンホールを開放せずダスト回収ができる新たな作業方法を確立。酸欠作業撲滅と同時に作業負担軽減にも成功した。

9:50

18 安全・施工品質管理状況および工事進捗の共有化について

㈱ユアテック 本社
再生可能エネルギー事業部 工事管理グループ 担当者
吹越 智美

当部は、再生可能エネルギー関連工事の各現場へ多数の技術者を派遣し、設計･施工管理の補助業務に当っている。現場毎の進捗および安全･施工品質管理状況を共有するため、写真や動画を使い定期的に情報交換することで、施工方法の統一化や注意点把握に努めている。

10:10

19 災害発生から学んだこれからの安全活動

日産自動車㈱
栃木工場 第一製造部 車体課 安全健康管理係長
加瀬 裕美

６年間無災害を継続してきたが､昨年８月に災害を発生させてしまった。そこからの反省を今後の安全活動に活かし、災害の無い職場を作るための活動と成果を紹介する。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

20 製鋼作業リスク低減取り組み

日本製鉄㈱
関西製鉄所 製鋼部 大阪製鋼工場 電炉課 班長
有田 暉

日本製鉄では重大リスク作業を６つに分類し、やむを得ず該当作業を伴う場合、工場長による特例許可作業として対応している。今回、安全レベル向上を目的に、手順見直し、治具作製等による重大リスク作業削減に取り組み、工場全体の安全レベル向上に加え、職場風土の改善につながった。

11:00

21 ＳJR下大利作業所における安全の取り組みについて

九鉄工業㈱
鹿児島支店 建築課 係長
大島 浩平

当現場は住宅型有料老人ホームの新築現場である。ハコモノと呼ばれる一般的なRC造の新築現場である。当作業所は鉄筋足場からの墜落事故、EVピットに降りる際はしごからの転落事故と２件の労働災害を発生させた。こうした労働災害を二度と発生させないための取り組みを報告する。

11:20

22 挟まれ災害撲滅に向けたクレーン作業廃止活動

コマツ 大阪工場 コンポーネント部コンポーネント第二課
グロウアップサークル ゼロ災リーダ
原口 大二郎

職場内のレイアウト変更のため、49台の設備の移設を行った。その中で発生した切削工具の運搬や、取り付け方法の改善のため新たに専用台車を作成した。この台車により運搬時のリスクを低減し、さらにクレーン作業を廃止することに成功した事例である。

11:40

安2 安全管理活動分科会（第2会場）

11:40

23 事業所横断による協力会社と一体となった災害撲滅に向けた取り組み ～災害半減の秘訣（2027年 ゼロ災に向けての挑戦）～

東京電力パワーグリッド㈱
業務統括室 茨城総支社駐在 シニア安全マイスター
酒井 克敏

弊社では、災害撲滅の取り組みを実施している。検討結果については、関係者にてディスカッションを行い、全員が腹落ちした上で、安全活動に反映・推進している。その取り組みの中から、具体的な災害の撲滅に向けた取り組みについて紹介する。

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

特別報告

福岡における労働災害の動向について

厚生労働省 福岡労働局
安全課長
奥薗 雅典

第13次労働災害防止期間中に発生した労働災害の分析結果と今後の課題について報告する。

13:30

24 毎年発行「安全白書」での労災データ分析と分析結果による安全活動

ナブテスコ㈱
岐阜工場 環境安全部 部員
佐伯 幹哉

毎年、年度の労災データを「型別」「事業所別」等各テーマ別に集計・分析し「安全白書」として取りまとめ、災害対策を講じてきた。しかし、労災は減らず、19年度は60件と過去最高を記録した。そこで、新たな安全活動を実施、20年度39件・21年度26件と大幅に減少した。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

25 管理監督者の安全管理に関する考察 ～自職場の安全をしっかり観るために～

㈱デンソー 本社
安全衛生環境部 安全衛生室 安全衛生1課 担当係長
中村 義哉

「管理監督者が自職場の安全をしっかり観れていない」ことに起因する災害の抑止が課題であった。本グループでは当災害の要因の深掘り等の研究を実施。研究を通じ、再発防止として最重要と考える管理監督者のための職場環境の整備（安全のための時間創出等）のポイントを提言する。

14:20

26 豊田の町工場の安全文化構築 ～グッド・セーフティー・カンパニー活用！～

田中工業㈱
総務部 安全衛生室
田中 航平

当社は安全を最優先して安全衛生活動を推進してきた。従来の取り組みを評価するためにグッド・セーフティー・カンパニーを利用し、専門家の視点から安全衛生活動の評価・アドバイスを受け、改善活動を実施した。改善した安全衛生活動について報告する。

14:40

27 車体課安全活動の取り組み、ながら行動禁止の定着

日産自動車㈱
追浜工場 製造部車体課 一般
大下 悠仁

「まさか」の階段から足を踏み外し休業災害を発生させてしまった。誰もが階段に身近な危険があるとは感じていなかった。この災害から階段の手すりをつかむ習慣と、日常の「ながら行動」にひそむ危険を認識させる啓発活動を通じて、安全意識を持った職場へ変えていく取り組みを紹介する。

15:00

福岡国際会議場 1階　エントランスホールにて

「職場の安全と健康 無料相談コーナー」

「中災防 図書・安全衛生用品 即売コーナー」開催！

機械・設備等の安全分科会

会場　福岡国際会議場（5F 国際会議室）
交通　西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月20日（木）　プログラム（9:00開場）

9:30

1 昇降設備の安全方策 ～STOP！転倒災害プロジェクトへの取り組み～
AGC㈱
AGC横浜テクニカルセンター 環境安全部
吉村 翔

階段からの転倒災害について、過去災害から原因分析と調査を行い、ISO14122-3 に基づく拠点独自基準を制定した。同時にリスクアセスメントによるリスクの定量化と周知を促し、24 時間稼働の工場現場で３ステップメソッドによる設備自体の改善を行った。

9:50

2 転落災害防止！屋外作業時の安全柵を作ろう!!
JFE 物流京浜㈱
車両保全部 車両保全室 リーダー
新保 秀樹

道路上で大型特殊車両の故障時に車上での緊急修理が必要になる場合があり、安全上墜転落の防護設備が必要であるが、道路上での緊急修理はその対応が難しかった。今回、軽量で、かつ一人で短時間で組み立てられる安全柵を試行錯誤して作成し問題解決に至った内容を紹介する。

（10:10 ～ 10:20 休憩）10:20

特別企画

農作業安全のための取り組みについて

講　演　**農作業安全の推進に関する取り組みについて**
農林水産省 農産局技術普及課 生産資材対策室長
吉田 剛

講　演　**農業機械の安全性向上に向けた農研機構の取り組み**
(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門 システム安全工学研究領域長(兼)安全検査部長
冨田 宗樹

事例報告　**クボタが進める農作業安全の取り組み**
㈱クボタ 農作業安全検討会に対応する社内連絡会議事務局 農機国内サービス事業推進部
稲垣 勇一

（12:10 ～ 13:20 昼休み）13:20

3 ヒューマンエラー撲滅に挑戦!!
～安全見張り盤による可搬式工具作業の安全化～
JFE スチール㈱
スチール研究所（知多地区）鋼管・鋳物研究部 技術員
宿利 秀一

鉄鋼業の災害データベースを基に類似災害防止活動を行うと、日常作業で用いる可搬式工具での災害が繰り返し発生していることに気付いた。分析するとヒューマンエラーが原因と判明し、同様の災害防止のために自分達で「可搬式工具専用制御盤」を考案・製作し作業の安全化につなげた。

13:40

4 大型コンベア設備における部門を越えたリスクアセスメントとリスク低減対策の実現
AGC㈱
関西工場 高砂事業所 設備技術センター 分区長
長谷川 雅紀

大型コンベア設備に巻き込まれる危険性がある作業について、設計者・工事業者・保全担当者・製造と多くの人を巻き込んで安全活動を行い、RA を工事～運用～運用後と携わる全ての人と現場を確認しながら繰り返し実施することで、抜けなく危険源を洗い出しリスク低減につなげた。

14:00

5 スマートタッチで問題解決「危険作業完全撲滅の軌跡」
JFE スチール㈱ 東日本製鉄所（千葉地区）
ステンレス部 ステンレス工場 リーダー
石井 孝明

ステンレス鋼板製造過程において鋼板の間に挿入する間紙は必要不可欠だが、長年静電気に悩まされてスムーズに挿入出来ない事が多かった。さらに修正作業には操業ロスと沢山の危険が潜んでいたが、Gr 全員で改善を重ねて静電気起因によるこれらの問題を解決することに成功した。

（14:20 ～ 14:30 休憩）14:30

6 暑い！寒い！狭い！３K作業解決への道
～水中作業がとてもツライので、対策してみた～
JFE スチール㈱ 東日本製鉄所（千葉地区）
制御部 制御技術室 品質センサグループ 室員
中村 太一

鋼板内部の介在物検査装置は世界でオンリーワンの機器で、その検出部センサーの点検・交換作業は過酷である。特に冬場の水中作業は精神的・肉体的にダメージがあり、行動災害を誘発する可能性もあった。作業者全員でアイデアを出し、画期的装置を開発し見事に危険作業を撲滅した。

14:50

機械・設備等の安全分科会

14:50

7 剪断パイラー周辺の安全改善 ～厚板で働くすべての人を守る！～

JFE スチール㈱
東日本製鉄所（京浜地区）厚板部 厚板工場 一般
山科 翔平

墜転落による重篤災害が散発する中、自職場で類似災害を発生させないという強い思いで本安全改善に取り組んだ。パイラー上を運搬する吊荷高さ制約で機上に手すりを設置出来ない状況改善のため、試行錯誤し吊荷運搬治具を考案作成。パイラー機上に手すり設置が可能となり本質改善につなげた。

（15:10 ～ 15:20 休憩）15:20

8 厚板冷却床チェーン取替工事の安全化 ～施工者さんの心の叫びを聴いて～

JFE スチール㈱ 東日本製鉄所（京浜地区）
設備部 熱延設備室 厚板機械 一般
阪本 真里

無災害を達成するために、設備の危険な工事をまとめた結果、冷却床チェーン取替工事が挙がった。チェーンをつないでいるピンが抜けないように、かしめる作業でハンマー振りを行っていた。その作業を撲滅する改善で、何度も失敗を繰り返したが、誰でも取り扱いが安全にできるようになった。

15:40

特別報告 **数値解析を用いた減肉を有する配管の破裂圧力推定**

(独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所
機械システム安全研究グループ 上席研究員
山口 篤志

石油精製、石油化学プラントでは、ボイラーや第一種圧力容器が多用されている。これらは、長期間使用すると減肉により機器の厚さが減少し、内圧に対する強度が低下する。数値解析および破裂試験を実施し、減肉を有する配管の破裂圧力の推定が可能であるか検討したので、紹介する。

16:10

機械・設備等の安全分科会　会場にて
「機械安全の相談コーナー」開催！

DX等分科会

会 場　福岡国際会議場（5F 国際会議室）
交 通　西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月21日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

1 全社DXプロジェクトを通じたエキスパートシステムを活用した労働安全衛生の取り組み

第一工業製薬㈱
滋賀工場 生産本部 生産管理部長付
木村 健一

労働安全衛生の取り組みで課題となっている技術伝承、人によるバラつきや属人化による災害の問題があった。この課題を解決するため、全社での DX の取り組みを加速させた中、自作のエキスパートシステムを構築、この最新技術で課題解決を図った。化学工場での事例とあわせて発表する。

9:50

2 IT ツールを活用した作業前ミーティングの充実化による安全感度向上

西日本電気テック㈱
京阪神統括支店 大阪電力ＭＣ 主任
亀本 真一

弊社では、鉄道電気設備の工事施工前に作業前ミーティングを実施しているが、ミーティングへのマンネリ化や集中力低下等による実行度の低下が懸念される。そこで、IT ツールを活用して従事者のミーティングへの集中を促し、安全・品質面での理解度をより高める取り組みを行った。

10:10

3 管理監督者の仕事を楽にする～管理業務のデジタル化で作業者に寄り添う時間をもっと～

トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 主任
坂尾 耕太

現場の管理業務が多忙化し、管理監督者が職場環境の改善や作業者とのコミュニケーションにかける時間が不十分となっている。管理監督者の業務負荷を軽減し、作業者の安全を気遣う時間を増やすことで、より安全な職場づくりを実現するため、生産現場のデジタル化と DX に取り組む。

10:30

DX等分科会

10:30

4 繰り返し発生しているヒヤリ・ハットを防止するための取り組み

東日本旅客鉄道㈱
東京建設プロジェクトマネジメントオフィス 主任
佐藤 学

鉄道工事を進める中で、繰り返し発生しているヒヤリ・ハットに対し、既存のVRを活用した教育やポイント集を活用した危険予知活動のフォローに加え、動画等による分かりやすいルールの説明やPKY支援システムの開発による類似事象の活用により、事故防止につなげている。

（10:50 ～ 11:00 休憩）11:00

講演

内製した製造DX技術～コンセプト：廉価・汎用・教育～ の職場安全への応用事例報告

ヤマハ発動機㈱
生産技術本部 設備技術部長
茨木 康充

ヒヤリ・ハットや労災は３Ｈ（変化、初めて、久しぶり）の環境下で発生することが多い。デジタル手段を用いて安全状態を監視する選択肢が増えてきたが予算との兼ね合いで十分に導入できない現実がある。廉価・汎用・教育をコンセプトに内製したDX技術を職場安全に応用した事例を報告する。

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

5 安全衛生管理のDX化活動

AGC㈱
環境安全品質本部 安全担当
高 斐

世界中でバラバラだった安全衛生の報告様式を統一し、労働災害情報収集システムを導入、労働災害を本社で集中管理して、データの集計や分析、見える化など安全衛生業務におけるDX化を推進している。これらのデータを活用して類似災害の予防や再発防止に取り組んでいる。

13:20

6 動画で見る作業手順書

コマツカスタマーサポート㈱ 北海道カンパニー
札幌南支店 札幌南支店サービスセンタ メカニック
長谷川 和宏

コマツ製品のサービス業務での使用頻度が低い治工具での不慣れによる災害防止を狙いとして、動画を用いた正しい使用方法と手順をQRコード化、iPhone等で客先や屋外でも簡単な操作で見て確認できるようにし、安全正確な作業を行えるようにした事例である。

13:40

7 LMS方式を活用したeラーニング

東日本旅客鉄道㈱
プロジェクト支援ユニット 安全企画（安全計画）課員
大橋 由貴

新型コロナウイルス感染症対策や働き方改革を進めるにあたり、従前の集合教育に変わり「LMS方式を活用したｅラーニング」を導入、講師側・受講側の負担軽減を図ることとした。時間や場所に制約を受けず、自由な時間に受講ができるため夜間従事者にも負担にならず好評である。

（14:00 ～ 14:10 休憩）14:10

8 人とロボットの協働作業におけるリスク低減とウェルビーイングの向上に向けた取り組み

トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 安全衛生支援室 技術Ｇ 一般社員
延廣 正毅

人と産業用ロボットに代表される機械類との協働作業に必須の機械安全の導入に加え、人と機械のコミュニケーションの最適化を実現するための新たな方策を現場導入することによる、安全性のさらなる向上と、生産性やウェルビーイングの改善およびその効果について報告する。

14:30

9 本質安全化への挑戦 ～ライン内 台車動点検作業の撲滅～

JFEスチール㈱
西日本製鉄所 制御部 銑鋼制御室 精錬制御職場 一般
藤元 直也

長年、当たり前のように台車を走行させながら稼働範囲に立ち入り、動点検作業を実施していた。流行りのアクションカメラを活用するとともに、専用マウントを製作。これらを用い、動点検作業自体を無くし、リスクレベルを低減することに成功した。

14:50

10 IoTを使った暑熱現場の熱中症対策活動報告

スターライト工業㈱ セーフティ・ライフサポートカンパニー 事業企画セクション 課長
東島 将俊

お客様の暑熱現場にて、熱中症対策に取り組んだ事例を紹介。実証実験から４年かけてお客様の現場で行った対策事例の紹介とそれによって得られた効果などを紹介し、熱中症対策でお困りの方々の参考になれる事を考えている。着用者の負担を低減できる装置の提供を目指す。

15:10

安全衛生教育分科会

会 場　マリンメッセ福岡A館（2F大会議室）
交 通　西鉄バス「マリンメッセ前」下車すぐ

10月20日（木）　プログラム（9:00開場）

9:30

1 JR東日本 東京電車線技術センターにおける架線作業車（軌陸車）の安全教育

東日本旅客鉄道㈱
東京支社 東京電車線技術センター 電気技術主任
馬木 大

JR東日本 東京電車線技術センターでは、毎年、座学と実技を組み合わせて架線作業車の安全教育を労災や機械トラブルの撲滅を目的に実施している。環境の変化に柔軟に対応するため、教育内容を随時見直しており、その訓練内容の報告を行う。

9:50

2 教育による安全衛生文化の継承

㈱アステム
安全推進室
佐藤 政夫

現在の安全衛生管理体制が構築されてから10年以上が経過し、随所に形骸化やマンネリ化が見られる中、安全衛生担当も後進の育成が必要な時期となっている。以前のような活気のある活動を取り戻すため、担当者の教育を含めた社内安全衛生教育体制の見直しと刷新を行った。

10:10

3 職長教育における新たな訓練ツールの創出

RSTトレーナー会
監事
鶴本 豊

他社災害を自職場に置き換えて説明することは難しい。ただ事例を説明するだけでは、聞く人に伝わらない。そこで教育の訓練ツールとして災害事例翻訳シートを創出した。職長教育や職長能力向上教育の中でこのシートを活用した訓練を行い、職長の能力向上に寄与するものである。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

4 過去災害からの安全活動の取り組み

日産自動車㈱
栃木工場 第三製造部 第一車軸課 技能員
塩谷 歩未

自職場での安全活動の取り組みを紹介、過去災害を振り返る。作業経験歴の浅い作業者への危険感受性向上が課題であるが、その危険感受性向上に向けた改善事例の紹介と成果を報告する。

11:00

5 職長教育の全社統一

㈱ダイフク
小牧事業所 安全衛生管理本部 安全統括部
平野 義就

過去から教育はフィールド系を中心に事業部任せとなっていた。そのために取り扱う製品や環境に偏った教育内容でレベル差が生じていた。事業部の壁を無くし生産・フィールド系従事者へ会社が望む職長像を伝える取り組みとして統一化を図った。RST保有者の安全意識も統一された。

11:20

事例報告

職場の心理的安全性を高めるためにリーダーはどのように行動するべきか

(一社)チーム力開発研究所
理事
青島 未佳

近年心理的安全性は、様々な組織の基盤として注目の的となっている。職場の心理的安全性構築に最も重要なことは、職場を統括する管理職のリーダーシップ行動である。本セッションでは、心理的安全性を高めるためにリーダーがどのように行動するべきか、研究結果と事例を紹介する。

（11:50 ～ 12:50 昼休み）12:50

講演

動機づけ面接を活用した　不安全行動指導法 ～「わかっちゃいるけどつい」をどうする

産業医科大学
産業医実務研修センター 教育教授
柴田 喜幸

「正しい知識があれば人は正しい行動をする、わけではない」。この産業保健の究極の課題に、職場のリーダーはどうすればよいのでしょうか。特に不安全行動は、命に関わることもあり、深刻です。当日は、「動機づけ面接法」のエッセンスを活かした「4×4指導法」をご紹介します。

13:50

安全衛生教育分科会

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

6 労働災害の形骸化防止施策について

西武鉄道㈱
車両部 武蔵丘車両検修場 副所長
町田 雅宏

当職場において発生した労働災害について、被災者へのヒヤリングを通じて当時の心理状態を分析し、効果的な再発防止施策を研究した。「正常性バイアス」に陥らないために、工夫した教育方法とその効果について発表する。

14:20

7 なぜなぜ分析手法を用いた背後要因知識拡充による危険感受性向上と効果の可視化

日油㈱
愛知事業所 環境安全管理室 室員
小島 幸也

電力中央研究所の研究報告に基づき、背後要因知識の拡充による危険感受性の向上活動を行った。知識拡充の方法としては「なぜなぜ分析手法」を用い、効果の把握については同研究所の危険感受性を直接評価する手法を簡潔化した独自手法を用いて効果の可視化を行った。

（14:40 ～ 14:50 休憩）14:50

8 全員参加の安全衛生教育の推進について

山崎製パン㈱
福岡工場 人事課 係長
松村 歩

当工場では昨年「機械災害、転倒災害」がそれぞれ２件発生したことから、全社で展開している「全員参加の 5S 活動」の考えを元にした「ラインテープによる現場内の区分」等の安全活動に加え、アルバイトを含めた全員が参加できる「指差呼称」の浸透に徹底して取り組んだ。

15:10

9 マクロを活用した汎用学習ツールの開発

日本貨物鉄道㈱
東海事業開発支店 課員
清水 玲子

当社の業務を行う中で、部署によっては資格の取得が必要となるが、一部の資格は難易度が高く、多忙な勤務と両立しながらの学習方法が課題となっている。本研究では Microsoft Excel のマクロ機能を使用し、社員が手軽に学習できる汎用学習ツールの開発を行った。

15:30

10 オリジナル動画制作で効果的な安全教育を目指して

JFE プラントエンジ㈱
安全衛生部 主任部員
高木 智子

道工具を中心とした施工の安全知識を学ぶトレーニングを社内各部署で実施していたが、世代交代によりトレーナー不足が発生し、部署間格差を招いてしまった。そこで教育のレベルアップと全社平準化を目指すべく V ラーニング用動画を制作。動画制作の中で意識した点等を紹介する。

15:50

10月21日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

11 製鉄業のライン管理者を対象とした安全関係法令教育について

日本製鉄㈱
本社 安全推進部 部長代理
佐野 嘉一

各拠点の製造現場の安全管理を担うライン管理者には、現場作業者への指導方法やリスク管理に関する技量を付与することに加え、コンプライアンスの順守を意識させることも極めて重要である。製鉄業の安全管理に必要な安全関係法令に関する知識を付与する教育について紹介する。

9:50

12 「安全探究室」を活用した安全教育の推進

東海旅客鉄道㈱
東海鉄道事業本部 美濃太田車両区 車両技術係
奥村 将大

JR 東海美濃太田車両区において発生させた重大な熱傷労災をきっかけに、安全教育全般を行う安全探究室を作成した。安全探究室を中心に教育 PDCA を回すことで美濃太田車両区の安全最優先の文化を醸成し、二度と労災を起こさない職場づくりの仕組みを構築した。

10:10

安全衛生教育分科会

10:10

13 過去災害を風化させない！安全考動を促す教育施設

トヨタ自動車九州㈱ 苅田工場・小倉工場 安全健康管理部
安全衛生推進室 苅田・小倉職場支援グループ 主事
川鍋 良平

弊社で発生した過去災害を分析し、類似要因による事例が多い事がわかったため、風化防止のための施設を我々安全健康推進部で立ち上げる事になった。どのように伝えれば来場者の記憶に残り、その後の安全行動を促す事ができるか。体感施設等を含め試行錯誤してきた結果を報告する。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

特別報告

労働安全に対する意識向上への取り組み

㈱ふくれん
甘木工場 副工場長
今村 文彦

「明るく働きがいのある職場づくり」を行動指針に掲げ、安全・安心で快適な職場環境の維持に努めている。今回は、従業員と労働安全コンサルタントとともに労働安全に対する意識向上に取り組んだ事例を紹介する。

11:10

14 出張形式による職長・安全衛生責任者教育の展開

㈱クロステック
代表取締役
篠原 毅

職場を離れることが難しい現場リーダーに対し、各企業へ出張して開催する出張型職長・安全衛生責任者教育を実施した。参加者の意見が抽出しやすいように付箋や模造紙などを活用。講習修了後は終了証の発行だけでなく、実施報告書を提供し事後に社内で共有しやすくした。

11:30

15 出張講習による事業場（職場の作業）にマッチした安全衛生教育の実施

名古屋西労働基準協会
伊藤 俊司

コロナ禍により安全講習会が中止や縮小となり、中小事業場から「事業場への出張講習」の依頼が多くあった。これらは受講生 10 人程度の少人数で、採算性や依頼から講習日までが短く講師の確保が難しい等の問題があったが、出張講習は事業場にマッチした教育ができる利点があった。

（11:50 ～ 12:50 昼休み）12:50

16 安全行動調査の取り組みについて

JX 金属ファウンドリー㈱
磯原事業所 管理部 安全管理課 マネージャー
松川 一弘

弊社は中途採用者が多く年齢幅が広い。安全行動調査は「エラー傾向・パーソナリティー傾向」を客観的に確認でき労働災害に繋がるヒューマンエラーの抑止に繋がると考えている。これまでの経験値に「性格分析」をプラスアルファする事で労働災害ゼロを目指し安全活動に取り組んでいる。

13:10

17 経験の浅い作業者に対する教育効果確認方法とNHK式KYT

日本発条㈱
技術本部安全環境部 主査
山下 満里子

弊社では作業経験年数の浅い作業者の災害が毎年発生している。作業者が手順を理解できていないことや、指導者が教えたつもりになっていたことが原因だった。そこで作業者と指導者が互いの理解状況を確認するツールを全社に導入した。併せて NHK 式 KYT についても報告する。

13:30

18 若手所員の安全管理教育 ～考えて行動できる技術者の育成を目指して～

京王電鉄㈱
工務部 施設管理所 助役
秋元 先広

当職場は入社 10 年未満の若手所員が中堅所員よりも多く、主要工事件数の減少傾向もあり、若手所員の技能・知識習得に課題があった。若手所員の要望も踏まえ、安全管理の知識向上や更なる技術習得機会を得るため、OJT に座学も併用した「若手所員の安全管理教育」に取り組んだ。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

19 安全の知識と意識をスパイラルアップ ～鉄道という仕事をする人に知ってほしいこと～

JR 九州電気システム㈱
長崎事業部 長崎工事所 所長代理
一ノ瀬 佳慎

職場課題の「若手社員の早期育成」を目的とした安全教育を実施した。教育については、社員の理解度や業務状況、要望、現場での心理的負担軽減等を考慮した内容とし、テーマ毎に「ねらい」を明確化し評価・改善を取り入れることで、社員育成と教育のスパイラルアップとなった。

14:20

安全衛生教育分科会

14:20

20 工学系大学における新規安全衛生教育制度の導入

(大)九州工業大学 キャンパスライフ支援本部
安全衛生・環境課 准教授
青木 隆昌

工学系の学部では、常に教育や研究においてリスク管理が必要となり，さらに学生は卒業後も生産や研究の場で安全衛生に関わる機会が多いため、在学中から継続的な安全衛生教育が必要となる。そこで、学部生、大学院生に対して新しい安全衛生教育認定制度を導入したので報告する。

14:40

21 高校での安全体感教育と明和町から地域労働安全『群馬モデル』へ(『第13次防』実践)

㈱日本キャンパック 群馬工場
環境・労働安全推進部 環境・労働安全推進部長
川野辺 光也

高校にて安全体感実践教室を開催。生徒は「就職前に貴重な体験ができた」との感想多数。群馬名物「上毛かるた」で遊ぶ地域性に着目し「安全かるた」で楽しく安全知識定着に取り組む。明和町を中心に群馬労働局、太田労働基準監督署が連携し『産官学』で、地域内労働安全推進を開始。

15:00

ゼロ災運動分科会

会 場　マリンメッセ福岡A館（3Fサブアリーナ）
交 通　西鉄バス「マリンメッセ前」下車すぐ

10月20日（木）　プログラム(9:00開場)

9:30

1 経験から学んだKY活動

日本架線工業㈱
技術開発部 課長代理
豊田 善行

2001年に発生した労働災害（死亡事故）を受け、特にＫＹＴに力を入れて取り組んできた。作業員自らが担当している作業に対して、どこに危険が潜んでいるのか、徹底的に洗い出しを行い、朝礼時に自身が今日一日何に注意するか発表させるスタイルに変更した。

9:50

2 全員がルールを守り守らせ風化させない、安全最優先な職場づくり

トヨタ自動車九州㈱
組立部 第2組立課 工長
丹生 敏彦

当社では『技能員にケガをしない、させない』という使命の下、日頃から活動の観点としてヒヤリ・ハット提案・KYT活動を行い未然防止活動を推進している。全員が確実に守る守れる仕組みを確立。二度と災害が発生しないよう、未然防止につなげた取り組みを紹介する。

10:10

3 “MyKY：私の作業の危険予知”活動による安全考動の推進について

㈱LIXIL
岩井工場 安全担当責任者
野本 高広

日々の生産活動の中で安全に重点を置きつつ、従業員の行動に起因する災害が増加傾向にあるため、”自分の身は自分で守る” 活動の中で、MyKY（私の作業の危険予知）としてKYT事例より自分の作業に置き換え、安全に対する意識を向上することでゼロ災職場を構築している。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

4 災害を乗り越えて

日産自動車㈱
追浜工場 工務部 生産課 一般
小地沢 英樹

安全推進委員を中心に安全活動に取り組んできたが、2021年1月にフォークリフトと人の接触事故を発生させてしまった。二度と災害を発生させない思いで活動を進化させ、フォークリフト基本技能の重要性の徹底と作業環境改善に取り組み安全意識向上につなげた事例を紹介する。

11:00

ゼロ災運動分科会

11:00

5 エネルギー部 直協ゼロ災達成に向けた取り組み事例

JFEスチール㈱ 西日本製鉄所（倉敷地区）
エネルギー部 エネルギー技術室 部安全専任
松尾 宣臣

＜調整中＞

11:20

6 指差し唱和から始まるゼロ災活動「問題解決4ラウンド法への歩み」

西鉄エンジニアリング㈱
電気部 信通工事課 工事１係 チームリーダー
船原 嘉孝

労働災害、運行障害のゼロを目指しゼロ災運動を推進しているが毎年労働災害が発生している。現在のKY、指差呼称では、マンネリ化となり効果が薄れてきた。より分かりやすく具体的に危険予知の抽出を行える問題解決４R法ＫＹおよび指差し唱和に移行した報告を行う。

（11:40 ～ 12:40 昼休み）12:40

運動展望

いきいきした職場づくりに役立つ積極的なＫＹ活動を継続しよう

中央労働災害防止協会
教育ゼロ災推進部ゼロ災推進課
武井 勝一

職場の危険に対応するためには、機械・設備の本質安全化や作業手順書の作成など管理面の対策を継続的に進めるとともに、危険予知（ＫＹ）活動を中心とした職場の自主活動の活発化も必要である。ＫＹ活動を組み込んだゼロ災チームミーティングでいきいきした職場づくりを進めるゼロ災運動の展望を紹介する。

13:10

7 指差し呼称の定着化の取り組みについて

日揮触媒化成㈱ 北九州事業所
環境安全管理部 北九州環境安全保安グループ
鳥越 隆行

指差し呼称を自然に行う文化づくりのために、全社的に取り組んだ指差し呼称の定着化の各種活動について、内容と現状について紹介する。

（13:30 ～ 13:40 休憩）13:40

事例報告

汎用IT基盤を活用したドライバー点呼とヒヤリ・ハット活動による安全への取り組み

㈱GMS
営業部 管理グループ グループリーダー
栗田 則行

㈱ジーエムエスは産業廃棄物の収集運搬と中間処理を行う会社である。中小企業である弊社では専用の機器やソフトウェアを使用せず、汎用IT基盤（Microsoft 365 Teams）を活用し、ドライバーの業務点呼とヒヤリ・ハット活動の推進を行っている。ITを活用した安全な職場環境を目指す事例を紹介する。

14:10

8 コロナ禍における工場現場でのゼロ災運動

㈱東研サーモテック
三重工場 工場長
大槻 剛士

コロナ禍での金属熱処理工場のゼロ災運動報告。① A1 版 KYT 用紙で一箇所一斉の KYT を実施し管理者がコメント、②管理者が労災ヒアリングパトロールで、全従業員一人ひとりにヒアリングし過去災害の知悉度を確認・指導、③ヒヤリ・ハット報告の全件フォロー、④工場内環境整備。実技も行う予定。

14:30

9 KY定着をめざし、独自の発想で挑んだ取り組み

富士石油㈱
製造部
橋谷田 英之

2016 年度に KY 活動の内制化を開始した当初は災害が減少。しかし社員の災害は年２～３件、協力会社は十数件発生。指差し呼称の定着を目指して独自の KY を考案実践している。やらされ感を払拭するため、トップ管理職の社内 KY 研修会を実施し、自主活動へとつなげる活動をしている。

（14:50 ～ 15:00 休憩）15:00

講演

年中夢求
～24時間をデザインする～

宇城市教育長
大津高校サッカー部 総監督
平岡 和徳

地方の公立高校から５人の日本代表を含む多数のＪリーガーを輩出。40 年以上のサッカー人生で築き上げた指導のノウハウとは？人材育成や組織づくりのヒントを語る。

16:00

交通安全分科会

会場　マリンメッセ福岡A館（3Fサブアリーナ）
交通　西鉄バス「マリンメッセ前」下車すぐ

10月21日（金）　プログラム（9:00開場）

9:30

1 ドラレコを活用した安全支援活動

日鉄テックスエンジ㈱
広畑支店 広畑生産部剪断課 作業長
髙田 健悟

見守りカメラとしてドラレコを活用し、全長300mの職場を網羅的に撮影、録画データを用いて個人の弱点を把握し、対話重視のフィードバックを行うことで安全な作業に改善することができた。現場相互や一般層の意見聴取も展開し、職場全体の安全実力・モラルの向上に寄与できた。

9:50

2 AIによるリスク運転自動検出機能を持ったドライブレコーダー活用の事例紹介

ジョンソンコントロールズ㈱
オペレーション監査室 安全管理室 安全管理室長
大門 真人

これまで交通事故削減活動をさまざま行ってきたが効果に乏しく、決定打となり得ていなかった。今回AIによるリスク運転自動検出機能を持ったドライブレコーダーを導入し、過去3年平均比で交通事故80%減の好成績を収めた事例を紹介する。

10:10

3 4R実技講習による追突事故防止

本田技研工業㈱ 四輪事業本部 ものづくりセンター
管理統括部 総務部 安全衛生課 チーフ
菅 将一

社内で2016年頃から追突事故が急増。防止施策を展開したが、追突事故の削減には至らなかった。その後、追突事故の真の原因について考察を進め、前方注視と車間距離の確保をテーマにした4R実技講習を実施することで、追突事故を大幅に削減することに成功した。

10:30

4 業務用車両運転者のSAS治療継続の重要性～居眠り運転ゼロへ、その後の取り組み～

㈱日立ビルシステム
関東支社 安全推進グループ 主任技師
岡田 泰彦

SASはCPAP等による適正な治療により生活習慣病等のリスク低減を図れるが、CPAPになじめず使用率が低い、業務多忙を理由に治療を止める等、新たな問題への対応が必要な状況となっている。治療レポートの定期的な提出により治療継続と効果の確認を行う取り組みを開始した。

（10:50～11:00 休憩）11:00

講演 安全運転管理者による運転者の運転前後のアルコールチェック義務化について

アルコール検知器協議会

令和4年4月より改正道路交通法施行規則が順次施行され、安全運転管理者には社用車運転者の酒気帯びの有無について確認するなどの業務が追加された。法改正に伴い、アルコール検知器の運用方法やアルコール検知器協議会の活動についてわかりやすく解説する。

12:00

防災・危機管理分科会

会場　マリンメッセ福岡A館（3Fサブアリーナ）
交通　西鉄バス「マリンメッセ前」下車すぐ

10月21日（金）　プログラム（12:50開始）

12:50

1 AR技術を用いた安全管理活動強化事例

武田薬品工業㈱
光工場 EHS 室長
山口 健一

不活性ガス（CO_2）消防設備を保有するサーバールームにおいて、ARコンテンツによる安全活動の強化に成功した。これらは①作業前のリスク確認、②作業中の天井裏等の不可視場所の確認、③緊急（火災）脱出の3フェーズで各々有益な機能をもち、作業者の安全確保に貢献する。

13:10

防災・危機管理分科会

13:10

2 80ｍ級高層煙突解体のリスク管理（特に悪天候による事故防止について）

ジオテクノス㈱
安全衛生推進室 室長
岡村 浩之

近年、全国各地で自然災害が頻発し、被害が発生している。クレーンによる高層煙突解体工事において、現場の風速・発雷有無の指標値を策定・運用し、さらに現場と本社で気象データの監視を行った結果、天候悪化による作業変更の事前検討やリスク管理に役立てることができた。

（13:30 ～ 13:50 休憩）13:50

講演

南極観測隊の安全術を現場に置き換えてみよう～閉鎖空間での人付き合い術～

南極越冬料理人
篠原 洋一

チーム内には、様々な異なる性格を持つメンバーがいて、それを認め合う事が大切。南極や客船内の閉鎖的な空間で目の当たりにしたこと、普段あまり耳にしない南極での生活（安全対策・水の管理・ごみ処理・環境保全・・・）について紹介する。

14:50

海外安全衛生分科会

会 場 福岡国際会議場（4F 中会議室）
交 通 西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月21日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

1 グローバル化に向けた安全の取り組み

㈱ダイフク 滋賀事業所
安全衛生管理本部 安全統括部 グローバル安全グループ
古館 亜美

ダイフクは世界 26 の国と地域に 59 の海外現地法人を有するグローバル企業で、グループ全体の約 7 割が海外現地法人の従業員である。安全文化の醸成のため、グローバル化に向けた安全活動を紹介する。

9:50

2 外国籍従業員にも対応した企業・病院・行政の連携による職域接種の実施

㈱日立建機ティエラ
総務部人財活性化プロジェクト 課長
河合 真一

新型コロナウイルス陽性者が増加する中、当社でも集団免疫の早期獲得が急務であった。全国的に医師確保が困難な状況の中、自治体、地元医療機関（私立病院）と協働し職域接種を実現。また、外国人の接種推進を進めたい自治体の要望にも応えることができた内容と成果を報告する。

10:10

3 海外拠点との安全衛生の連携強化

（一社）日本自動車工業会 安全衛生分科会 A グループ
研究会委員（スズキ㈱人事部 安全衛生グループ 係長）
渡辺 友一郎

現在、私たちが働く自動車業界は各社それぞれが世界に進出し、グローバル化が進んでいる。そのため、海外拠点の安全衛生管理の重要性がますます高まってきている。海外拠点との連携をさらに強化し、レベルアップするための各社の取り組みについて報告する。

10:30

ダイバーシティ分科会

会 場　福岡国際会議場（4F中会議室）
交 通　西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月21日（金）　プログラム（10:40開始）

10:40

1 聴覚障がい社員の活躍と職場理解を促すために～コミュニケーション改善の取り組み～
東日本旅客鉄道㈱
高崎支社 高崎鉄道健診センター 主任看護師（保健師）
遠藤 弥生

新型コロナ対策によるマスク着用のため、聴覚障がい者にとってコミュニケーションが困難な環境となった。職場社員を対象に聴覚障がい理解促進のための講話とコミュニケーション改善の４種の体験を聴覚障がいのある社員と共に開催した結果、互いの関心が高まり理解促進へとつながった。

11:00

2 食品溶解装置の安全対策 ～障がい者雇用による運用の取り組み～
㈱Ｊバイオフードリサイクル
横浜工場
菅谷 貴明

弊社で事業展開する食品リサイクルにおいて障がい者を雇用した溶解装置処理を実現した。運用まで障がい者への安全配慮を目的に設備面でのセンサー設置、シーケンス改良、音声連絡システム等を導入した。作業面では安全掲示板の設置や作業日誌の活用等、安全活動の事例紹介である。

11:20

3 人に優しい職場改善によるリスク低減活動
日産自動車九州㈱
製造部 塗装課
石川 彩音

職場から日々報告されるヒヤリ・ハットメモから最も件数の多い足元の段差によるつまずき防止について、シニア層や女性にも優しい職場環境に改善する取り組みを行った。エルゴノミクスの視点や職場の段差、作業者の足を上げる際の高さなど調査して、最適な高さを導き出し転倒リスクを低減した。

11:40

第三次産業分科会

会 場　福岡国際会議場（4F中会議室）
交 通　西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月21日（金）　プログラム（12:40開始）

12:40

講演　**新たな視点に立った第三次産業に対する腰痛・転倒予防とは？**
東京大学医学部付属病院 22世紀医療センター運動器疼痛メディカルリサーチ＆マネジメント講座 特任教授
松平 浩

腰痛は生活に支障をきたす影響が最も大きい愁訴であり早期リタイアにもつながる。一方、骨粗鬆症が進行する世代の女性で転倒災害が増えている。仕事との両立を目的にした最新のオランダガイドラインも紹介しつつ概念が変革期にある腰痛対策及び転倒予防について参加型で概説する。

（13:40～13:50 休憩）13:50

事例報告　**鋭い感性で働く人に安全・安心をお客様にはご満足・感動を**
青森中央学院大学大学院 客員教授
（一社）全国スーパーマーケット協会 調査役
小澤 信夫

鋭い感性を持ち、顧客の痛みを自分の痛みとして共有するなど、その気働きが労働災害撲滅には極めて重要である。職場や店舗の安全・安心に関する意識高揚が職場環境の改善につながり、職場の活性化につながった事例を報告する。

14:20

事例報告　**いつでもどこでも活用できる労働安全衛生を広めるための新たな取り組み**
（公社）全国ビルメンテナンス協会
広報委員会委員長
小田 浩司

全国ビルメンテナンス協会では、毎年の労働災害発生状況を把握するため、各都道府県協会からの「災害報告システム」を運用している。その結果をフィードバックしつつ、各地の安全大会への支援など、様々な活動を展開してきた。今回は新たに配信を開始した安全衛生動画コンテンツの内容を交え報告する。

14:50

労働衛生管理活動分科会

会場 福岡国際会議場（4F中会議室）

交通 西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月20日（木） プログラム（9:00開場）

9:30

1 試乗会における“COVID-19感染者ゼロ”への取り組み

日産自動車㈱ 栃木工場 車両実験部
Infiniti商品性＆実験統括Gr テクニカルエンジニア
磯部 良太

コロナ感染が拡大する中で良い車を提供する為、試乗会を実施している。試乗会運営は『感染リスクをミニマム』『感染範囲をミニマム』『濃厚接触者を限定、追跡可能』の三つの方針で、どう運営すべきかを追求し、最善策実施により試乗会における感染者を継続して抑えて来た。

9:50

2 乗務員職場における新型コロナウイルス感染予防対策について

東武鉄道㈱ 鉄道事業本部
技術統括部 運輸部 七光台乗務管区 助役
白石 恭孝

公共交通事業を担う我々は、職場内感染が発生した際の社会的影響が極めて大きい。職場全体でその使命を自覚すると共に、絶対的な感染予防対策が確立されていない状況下で、職種の特殊性を考慮したさまざまな対策を実施、現在まで職場内感染は発生していない。

10:10

3 JR仙台駅におけるコロナウイルス対策の取り組み

東日本旅客鉄道㈱
仙台支社 仙台駅 主任
齋 裕之

新型コロナウイルス感染が拡大している中、多くのお客さまが利用する仙台駅において、お客さまや社員から感染者を発生させないために、非接触型アルコール消毒液の設置、手洗い動画の放映等他、鉄道事業者ならではの取り組みを実施しお客さまへ安心・安全を与えるよう心掛けた。

10:30

4 感染予防対策の変遷と品質管理ツールを応用した社内濃厚接触者特定ツール「COCOP（ココピ）」の開発

㈱氷見村田製作所
事務課安全環境防災管理係 チームリーダー
山手 瑞季

全国的な新型コロナウィルスの感染拡大を受けて行った弊社内での感染予防および従業員の感染危機意識向上活動についてまとめる。さらに感染者または感染の疑いがある従業員が報告された場合に、社内濃厚接触者の素早い特定を可能としたツールについても紹介する。

（10:50 ～ 11:00 休憩）11:00

講演

職場における新型コロナウイルス対策 ～これまでの学びをこれからに活かす～

元 国際医療福祉大学 医学部公衆衛生学 教授
和田 耕治

新型コロナウイルスと対峙して２年半が経ちます。これまでの対応から学び、今後の特に冬を迎える中での対策や、中長期に感染症にも対応できる職場や社会にすることを目指すにはどうしたらよいかについてお話しします。

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

特別報告

最近の労働衛生に関する動きについて

厚生労働省
労働衛生課長
石川 直子

労働者の高年齢化やテレワークの普及など働き方の多様化に伴い、職場における労働衛生対策の対象や範囲は拡大している。このような社会情勢の中、メンタルヘルス対策や治療と仕事の両立支援等の職場で求められる取り組みに関する、最近の労働衛生行政に係る動きについて紹介する。

13:30

5 腰痛防止に向けた重量物作業の削減・改善

メルコパワーデバイス㈱ 福岡事業所 第一事業部
製造一部 装置保全一課 改善G グループリーダー
堀田 貴利

過去に発生した腰痛症の再発防止対策として、業務で取り扱う重量物を5kg以下、10kg以下、15kg以下、20kg以下に分類し、持上げ・下げの回数を基にリスクアセスメントを行い、リスクの高いものを優先して対策を行っている。

13:50

労働衛生管理活動分科会

13:50

6 個人目標『あるべき姿』の設定と掲示で働きやすい職場環境づくり

東急プロパティマネジメント㈱ ビルマネジメント事業本部
ＢＭ事業部 施設サービス二部 アメニティ課 二子班 班長
北井 幸子

私たちの職場では、単独作業のため、コミュニケーション不足による誤解や軋轢が生じた。このため、個人目標の『あるべき姿』を事務所内に掲示し、各々の考え方を知り、コミュニケーションも取れるようになった。また、安全や接客に対する新たな気付きを得て意識も高まった。

（14:10 ～ 14:20 休憩）14:20

7 直協一体となった熱中症防止対策

日鉄ステンレス㈱
製造本部山口製造所（光エリア）安全環境防災推進部
野末 知里

当社では、熱中症の重症化ゼロを目標に、作業環境・教育・管理面からアプローチを行っている。その結果、熱中症の重症化は防げておりかつ直近の直協あわせた軽度熱中症発生者数は１～２件 / 年程度と減少している。今回は、その取り組みについて紹介する。

14:40

8 熱中症による労働災害ゼロを目指して！～近畿日本鉄道㈱における取り組みと成果～

近鉄グループホールディングス㈱
近鉄グループ総合健康管理センター 大阪健康管理センター 保健師
梶清 裕子

近鉄では、人材開発部・保健師・各部の安全衛生指導員が連携し熱中症予防対策に取り組んでいる。熱中症発生件数の多い若年層を対象としたセミナーの実施や、WBGT 測定巡視による予防意識の向上に努めた結果、熱中症発生件数を大幅に減少できたため、その取り組みを報告する。

15:00

9 屋外作業における熱中症予防の取り組み

日本貨物鉄道㈱
東海支社 稲沢駅 輸送係
藤井 洸輔

熱中症のリスクが年々高まる中、新入社員の中には夏場の炎天下での作業中に体調を悪くする者が出た。従来行っている WBGT 測定や啓発ポスターでは限界があると考え、より直接的な対策として熱中症対策ウェアの導入を検討し、熱中症対策ウェアの効果の比較を行った。

15:20

10 熱中症災害から学ぶ「まず確認！安全最優先！」への取り組み

㈱ユアテック
宮城支社 工務部 土木建築課 係長
三枝 昭彦

現場所長のゼロ災運動への取り組み報告。無事故無災害を目指して安全活動を推進してきたが、熱中症災害が発生し監督署より「対策をやっていても労災が起きればやっていないのと同じ」と指摘を受け確認することの重要性を再認識し、災防協を通じて取り組んだ安全対策を紹介する。

15:40

化学物質管理活動分科会

会 場 福岡国際会議場（4F 中会議室）
交 通 西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10 月 21 日（金） プログラム（9:00 開場）

9:30

特別報告

レーザー・IH による塗膜剥離工法導入のための作業者リスク（ばく露実態調査）評価

中央労働災害防止協会
大阪労働衛生総合センター 上席専門役・衛生管理士
東久保 一朗

PCB および鉛を含有する塗膜に対する新たな剥離工法として、試験的にレーザークリーナー工法（連続レーザーとパルスレーザー作業）と IH（電磁誘導加熱）工法での剥離作業を実施し、これらの工法における有害塗膜剥離作業者の化学物質健康障害リスクを評価したので報告する。

10:00

化学物質管理活動分科会

10:00

1 化学物質リスク診断の取り組みについて

ナブテスコ㈱
岐阜工場 環境安全部
棚橋 伸二

外部機関の化学物質リスク診断で労働者の健康障害に至る指摘等があったため、化学物質リスク診断を継続実施することになった。
国内工場の有害物取扱職場で VOC 測定器を活用した有害物漏洩調査と対策を行い、有害物暴露リスクを低減させた。

10:20

2 溶接作業における作業環境管理と改善調査～溶接ヒュームに係る法改正の考察～

カヤバ㈱
CSR・安全本部 安全・環境部 シニアアドバイザー
神山 嘉千

金属アーク溶接ヒュームに含まれる塩基性酸化マンガンが、特定化学物質として規制対象になる法律改正がされた。当該作業は、自動車部品工業会の企業で多く実施されており、部工会メンバーや異業種の対応を調査して改正内容を理解し、適切に対応するための方法を紹介する。

（10:40 ～ 10:50 休憩）10:50

特別報告

新たな化学物質規制への移行に向けて

厚生労働省
化学物質対策課長
安井 省侍郎

自律的な管理を基軸とする化学物質規制への移行に向けた制度改正について紹介するとともに、自律的な管理の移行に係る課題を踏まえた各種施策について報告する。

11:20

3 全社衛生管理水準向上に向けた取り組みについて

日本製鉄㈱
本社 安全推進部 主査
高川 勇貴

各事業所で衛生管理を担当するスタッフに対し効率的に知識を深める取り組みとして、衛生関連規則を調査し互いに発表する社内研修会を行ってきた。また、衛生に関する投資の必要性を経営トップや関係部門に伝えるツールとして健康障害リスクを数値化する指標を制定し運用している。

11:40

4 乗務員とアルコール

九州旅客鉄道㈱
鹿児島乗務センター 運転士
木村 竜太郎

人は、飲酒により正しい運転操作や判断ができなくなる。飲酒による事故防止と健康被害防止を図るため、アルコールに対する正しい理解と飲酒に対する意識改善を目的として二つの検証を行い、飲酒による注意力や判断力低下を実証し職場内に展開することで意識の改革を図った。

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

パネルディスカッション

化学物質の自律的な管理に向けて

パネリスト	厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質対策課 化学物質国際動向分析官	大淵 和代
	DIC ㈱ レスポンシブルケア部 部長	山口 忍
	中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター 健康開発課 課長	岡村 真吾
	産業医科大学 産業保健学部産業衛生科学科作業環境計測学 教授	宮内 博幸
モデレーター	中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター 所長	川本 俊弘

14:30

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

会場 福岡国際会議場（2F 多目的ホール）
交通 西鉄バス「国際会議場・サンパレス前」または「国際センター・サンパレス前」下車すぐ

10月20日（木） プログラム（9:00開場）

9:30

1 健康支援アプリを使った「次世代の行動変容」の取り組み

トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 第1健康支援室 健康企画G 主任
松枝 貴康

更なる健康意識向上に向けた若年層へのアプローチや、在宅勤務など多様な働き方に対応するため、新たな健康支援アプリを2021年10月にリリース。従業員の視点に立ち、アップデートを繰り返しながら、一人ひとりにあったサポートを継続的に行っている。

9:50

2 職場の健康づくり活動

三協立山㈱
総務人事統括室安全衛生部 安全衛生一課 保健師
塩﨑 眞弓

従業員の健康維持・増進のため、要受診対象者と保険スタッフの時間調整やコロナ禍で対面指導が難しい状況の中、健康診断の要受診者や特定保健指導対象者の受診率向上に向け、安全衛生部の保険スタッフが改善に取り組んだ内容について発表する。

10:10

3 未来の課題を見据えた健康基盤づくり

バンドー化学㈱
人事部 保健師
山川 奈々

当社では従業員が本来のパフォーマンスをよりよく発揮できるよう、健康課題を明確化してPDCAを回してきた。休業日数率0.4%以下を目標に、従来は生活習慣病予防とメンタルヘルス対策を主に行ってきたが、近年は高齢化対策にも注力している。これらの活動の一部を紹介する。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

4 認知行動療法的手法を取り入れた「だれでも禁煙」プログラム

JFEスチール㈱
西日本製鉄所 倉敷安全健康室 保健師
清迫 絵里子

禁煙への関心を問わない新しい集団禁煙指導プログラム「だれでも禁煙」の開発により、禁煙希望者が10倍に増加し、わずか2年で社員の喫煙率が9.4%低下した。認知行動療法的手法により、無関心期の喫煙者を禁煙につなげることを可能にした本取り組みについて紹介する。

11:00

5 コミュニケーション不足が影響したメンタル不調と本当に効果があったゼロ次予防

㈱エボルブ Operation Design部
Operation Design部主任 衛生管理者
阿世知 みさき

平成生まれ8割、IT系企業。コミュニケーション分断によるメンタル不調の相談が増加。一次予防活動では足りない。「効果が思うほど出なかった取り組み」と、社会的・文化的な環境因子に着目した「メンタル不調の相談件数が激減し、本当に役に立ったゼロ次予防活動」を紹介する。

11:20

特別報告

福岡におけるメンタルヘルス対策について

厚生労働省
福岡労働局 健康課長
筒井 壽生

福岡労働局では、毎年、関係機関との共催により、県下4地区で「メンタルヘルスセミナー」を実施している。このセミナーの実施状況のほか、福岡労働局における各種メンタルヘルス対策の取り組みについて報告する。

（11:50 ～ 12:50 昼休み）12:50

6 ストレスチェック結果を活かした従業員主導型の取り組み～楽しんで参加できる活動を～

㈱ダイセル 事業支援本部グループ健康サポートセンター
（兼）イノベーション・パーク 保健師
橘本 郁子

今年度、職場のいきいき度に関する項目が増加となった。これをきっかけに、事業所における職場環境改善の仕組みを体系化した。今回、その内容と工夫点、部門の主体的取り組みや、事業所全体への展開につながった産業保健活動を紹介する。

13:10

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

13:10

7 中小規模事業場におけるメンタルヘルス不調者の職場復帰支援

有楽製菓㈱
豊橋夢工場 総務課 課長
伊藤 香

当社では、メンタル不調による休職者が復職しても、６割が再病休していた。原因は復職プログラムにあると考え、支援体制を大きく見直した。その結果、再病休者は３割まで減らすことができた。支援プログラムを改善することで効果があると認められたのは成果だと考えている。

13:30

8 メンタルヘルス対策は「問題解決へ向けた共通認識から」～外部機関を上手に活用～

㈱北川鉄工所
経営管理本部 安全・環境推進部 安全衛生管理課
長島 絵梨

メンタルヘルス対策において、専属産業医等の専門職がいない中、外部専門機関を利用することで、マンパワーや知識不足をカバーした。全ての役職層において、対応方法が分からず敬遠していたメンタルヘルス問題について共通認識を持たせ、積極的に関わる体制や意識改革を行った。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

講演

ストレスによる心身の反応と対処

中村学園大学・短期大学部
学長（前九州大学総長）
久保 千春

心理社会的ストレスは心身に大きな影響を及ぼしている。ストレスによって神経・内分泌・免疫系や各臓器の反応が起こり、精神状態に影響を及ぼす。一方、不安、抑うつ、怒り、悲しみなどの精神状態は、身体状態にも影響を及ぼす。ストレスの仕組みとその対策について紹介する。

（15:00 ～ 15:10 休憩）15:10

9 職場の健康づくり「社員一人ひとりのヘルスリテラシーを向上させる」取り組みについて

東日本旅客鉄道㈱
盛岡支社 八戸運輸区 主任
橘 尚武

健康経営の推進を実現するために、現状を把握する職場内アンケートの実施、アンケートを元に改善に向けた取り組み「禁煙、食事、運動」に関する啓発ポスターの掲示、JR グループ健保主催のウォーキングイベント「歩活」に職場全体で参加することの３つの目標を設定し取り組んだ。

15:30

10 生活習慣への意識変化に着目した保健指導の取り組み～ BMI25以上の社員を対象に～

丸善石油化学㈱
千葉工場 事務部 勤労課 健康管理室
平岡 昌樹

当事業所では、肥満者の割合がほぼ全ての年代で増加傾向であるが、特定保健指導以外の保健指導が十分行えていなかった。そこで、若年者も含めた保健指導を実施した。生活習慣の意識変化へ主眼をおき、目標設定の自由度を高くすることで、BMI の値へ改善が見られたので紹介する。

15:50

11 定期健康診断結果からみた有所見率低減に向けた取り組みについて

㈱ユアテック
本社 人事労務部 部長（衛生グループリーダー）
伊深 好次

社員の健康の保持・増進および疾病予防をはかるため、有所見率低減に向けて二次検査全員受診の徹底、社員自らの生活習慣を見つめ直す健康宣言の取り組み、全社員を対象とした生活習慣アンケート結果分析による対策の取り組みなどを紹介する。

16:10

10月21日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

12 職場環境の変化と健康づくり

三菱電機㈱ パワーデバイス製作所
総務部 福岡総務課 グループリーダー
有馬 純一

食事支援やキャンペーン、スポーツ大会など従来の健康づくりで一定の成果を上げてきた。しかし、コロナの感染拡大の対応として在宅勤務、遠隔地勤務など職場環境の変化は大きく、それに応じた施策として、睡眠計の導入、リモートでのセミナー開催などを実施中である。

9:50

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

9:50

13 建設業における健康経営とは

異島電設㈱
総務 係長
飛松 三紗子

社員が元気で健康に働けることで会社自体の業績アップにもつながっている。日々変わる現場の中で、社員の健康・ストレス状況の確認法や他現場間のコミュニケーションの取り方に苦労した。相談窓口の一本化を行い、健康だけでなく困り事を話せる環境づくりを行った。

（10:10 ～ 10:20 休憩）10:20

シンポジウム

「少子高齢化時代の健康経営を考える～今、企業に求められるウェルビーイングの追求～」

第１部：基調講演「健康経営の成果とは　そして成果をあげるためには」

産業医科大学 産業生態科学研究所 教授
（健康・医療新産業協議会健康投資ワーキンググループ主査）　森 晃爾

第２部：パネルディスカッション

パネリスト　㈱明電舎 代表取締役 執行役員副社長　竹川 徳雄
㈱正興電機製作所 常務執行役員　有江 勝利
産業医科大学 産業生態科学研究所 教授　森 晃爾
厚生労働省 福岡労働局長　安達 栄
中央労働災害防止協会 健康快適推進部長　林 かおり
モデレーター　NPO 健康経営研究会理事（㈱ルネサンス 健康経営企画部 部長）　樋口 毅

第３部：講演「+safe 協議会～行動災害防止に向けた新たな取り組み～」

埼玉労働局 労働基準部 健康安全課長　繁野 北斗

（12:50 ～ 13:50 昼休み）13:50

14 大学生の健康習慣に関する実態調査報告

筑紫女学園大学
人間科学部 心理・社会福祉専攻 准教授
日髙 崇博

大学生は「健康には関心はあるが健康行動にはつながりにくい」と指摘されている。青年期の健康習慣の乱れは成人期以降の生活習慣病の発症リスクを高めることにつながるため、大学生の健康リテラシーを高めることは企業にとっても重要な視点となるだろう。

14:10

15 弊所における高年齢者・女性職員への健康管理の取り組み

（公財）福岡労働衛生研究所
健康増進部 課長
酒井 三枝子

50 歳以上の職員に健康測定を実施し、健康増進にむけてアドバイスを行った。また、女性の健康管理の一環として、子宮頸がんについての意識調査を行い、健（検）診において自己採取ＨＰＶ検査を導入した。弊社で掲げている健康経営の重点項目７項目のうち２つの結果について報告する。

（14:30 ～ 14:40 休憩）14:40

講演

病気の治療と仕事の両立支援の基本と実践～全ての働く人とあらゆる職場で使えるコツとヒント

㈱健康企業
代表・医師
亀田 高志

心とからだになんらかの病や不調を抱えていても、仕事を続けたいと思う従業員に、組織は寄り添えているだろうか。“病や不調は自己責任”という風潮はないか、体調が悪くても口にしにくい文化がないか、病や不調と仕事の両立という観点で職場における職務の再設計と組織開発の支援は何か、この分野に精通する専門家である医師が分かりやすくお伝えする。

15:40